

ボランティアとは？

ボランティアは誰にでもできる、
いつからでも始められる活動です。

「ボランティア」という言葉に対して、あなたはどんなイメージを持っていますか？

- ・ボランティアは特別な人がするもの
 - ・ボランティアは福祉分野ばかり
 - ・ボランティアはつらい、地味、自己犠牲……
- そんな風に考えていませんか？

一般的なボランティアのイメージとして連想されがちな社会福祉分野での活動はもちろん、自然・環境、国際、スポーツ、まちづくり、災害支援など、活動分野は多岐に渡ります。ボランティア支援室に寄せられる多様なボランティア情報の中から、自分に合った活動を探してみよう！

参加の流れ

STEP 1

まずは
ボランティア
支援室へ！

STEP 2

相談
※スタッフがあなたに
びったりの活動を探す
お手伝いをします。

STEP 3

行ってみたい
活動先に
申し込み

STEP 4

活動に参加！
※活動後は感想などを
ボランティア支援室に
お寄せください！

ボランティア保険加入

- ⚠️ 活動先で物を壊してしまった！
- ⚠️ 自分が怪我をしてしまった！
- ⚠️ 相手に怪我をさせてしまった！

ボランティア活動中に、事故にあったり、上記のようなトラブルに対して責任を問われたりする可能性もあります。万が一の事態に備え、ボランティア保険に加入しましょう。保険期間は4月1日～翌年3月31日まで。期間途中の加入の場合は、保険料振込日の翌日～当該年度の3月31日までとなります。

問い合わせ先：全国各市町村社会福祉協議会

ボランティア活動の際の注意点

1. 約束・時間は守ろう
2. プライバシーは守ろう
3. できることから少しずつ行い、継続できる活動にしよう
4. 相手の立場にたって考えよう
5. 積極的に関わろう
6. 万が一の事故に備えて、ボランティア保険には必ず加入しよう
7. 自分だけで判断できないことは活動責任者に連絡・相談をしよう
8. 活動が終わったら、自分自身を振り返ってみよう



ボランティア活動をしたことがない！

初心者



まずは身近なことから始めよう！

ボランティア支援室主催のプログラムに参加して興味のある活動分野を見つけたり、得意なことが活かせる活動を探してみよう。

たとえば… (2016年度実績)

- 体験ボランティアプログラム
- 同志社つながる@カフェ
- ボランティアウィーク
- ボランティア入門講座 など



PICK UP

体験ボランティアプログラム 和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア



体験ボランティアプログラムは初めてボランティア活動をおこなう学生を対象に実施するプログラムです。和束町でお茶農家さんの所有する茶畑での作業を手伝いながら、1泊2日でボランティア体験をしました。実際の活動と地元の方との交流を通じて、和束に暮らす人々の想いや抱える課題に触れ、学生の立場でもできることについて考える機会となりました。

- コーディネーターや ARCO に相談

ボランティア支援室では、コーディネーターや学生スタッフ ARCO がボランティア相談を受け付けています。いつでも窓口へお越しください！



メールマガジンに登録

オススメのボランティア情報やイベント情報を、月2回配信しています。ぜひメールマガジンに登録して、最新のボランティア情報をキャッチしてください。



登録は、ji-volun@mail.doshisha.ac.jp へメール送信！



経験はあるから、もっと
いろんな活動の場がほしい！

経験者



経験を活かして活動の幅を広げよう！

様々な分野のボランティアやセミナーに参加し、活動の幅をさらに広げてみよう。

たとえば… (2016年度実績)

- 分野別ボランティア体験
(子ども)一日体験ボランティア
四季体感プログラム
(防災)京都市総合防災訓練
(イベント)上京区民ふれあいまつり
- 分野別セミナー
(防災)災害ボランティアセンター基礎講座
- まちづくりに関する地域の会議に参加



- 運営スタッフとして活動に関わる

地域の方と一緒にイベントを作り上げる運営スタッフに挑戦してみませんか？参加者ではなく運営側としてボランティア活動に関わることで、新しい発見があるかもしれません。学生スタッフ ARCO としてボランティアイベントの企画運営に携わることも可能です！



熊本地震 災害復興支援の取り組み

2016年の熊本地震発生後、現地の社会福祉協議会を通じて、災害ボランティアセンター運営補助や仮設住宅への引越し補助等の、現地での支援活動を行う学生の送り出しを行いました。また、学内では募金活動や、熊本の復興支援物産展、パネル展示の実施など、復興支援活動も行いました。



ボランティア支援室では、これからも、災害復興支援や防災の取り組みなどに目を向け、活動を続けていきます。